

県民の放射線被ばく線量を把握するための調査(案)について

1 調査目的

第1回有識者会議の結果、これまでのモニタリングデータ等を概観したところ、県内の放射線レベルは健康に影響を及ぼす程度ではないと思われるが、県民の理解を得るためには、放射線被ばく線量を目で見える形にすることが有効との助言を受けた。これを踏まえ、外部・内部被ばくに関するサンプル調査や推計による、県民の被ばく線量を把握するための調査を実施する。

2 調査概要

調査名	対象	対象選定方法	調査内容	その他
外部被ばく線量測定	空間放射能水準調査(空間放射線量の測定)結果(7箇所)を対象		計算により算出	
個人線量計による幼保小中学生の被ばく線量測定	汚染状況重点調査地域に指定された8市町(佐野市、鹿沼市、日光市、大田原市、矢板市、那須塩原市、塩谷町、那須町)及びその他の地域の幼保小中学生(3~15歳)	・5月に実施した教育機関等における放射線量調査結果を参考に、学校を選定する。 ・各学年で1クラス単位(最大35人)での実施を想定 ・約3,000人を対象	・2ヶ月間 個人線量計を携帯し、外部被ばく線量の測定 ・行動調査にて簡単な行動記録も記載	
学校等の給食調査(陰膳方式)	汚染状況重点調査地域に指定された8市町及びその他の地域の給食	・市町村が選定する給食施設 ・保育所2か所、小学校2か所、中学校2か所とし、1自治体あたり6箇所を想定 ・60検体程度	ゲルマニウム半導体検出器にて測定	
ホールボディカウンター(WBC)による測定	検討中	検討中	WBCを使用して、内部被ばく線量を測定	検査受入機関未定